



C169 (1)

安政丙辰官許新鑄

東壑翁著



防火策圖解

附地震劇風津浪豫防法圖說

鐫川堂藏



廿三

防火策圖解叙

人之在世也。不能身究一藝。通一術。而敷德於當時。流澤於後世。徒務詞章記誦之業。謾夸博物多能之目。或惑浮屠異端之教。或唱西洋窮理之說。或錐末是競。或進仕是躁。或玩弄風月。或沉湎酒色。生而無益於國家。

防火策圖解序

41-8052 (1)

死而與螻蟻同朽。豈可謂之有志之士哉。小田東壑翁者。有志之士也。其爲人。端毅方正。忠信誠慤。夙抱經濟之志。而不敢孜孜於詞章記誦之業。一且罷仕。退隱於醫。遠聲色。菲衣食。而專用力於實學。以富國利人之說。自任。凡自軍法兵學。以及器械製造。機

智妙算。出人意表。醫業之暇。出其緒餘。以示諸人。人皆無不歎服。其自信之篤。筆之於書。以藏于家。是以著述頗多。頃將刻防火策圖解。示予曰。此吾二十年来。覃思研精而所得。防火之一術也。將播布之於世。而使人脫回祿之禍。請子爲我序之。予受而閱

之。其言詳確。其意深切。其製器適用也。新奇輕便。其於防火之說也。可謂古今未曾有之書者歟。蓋太平之世。人無兵革之警。土無劫掠之患。安閭里而可以住焉。構堂榭而可以居焉。人煙如雲。錢貨輻湊。膏粱滋味。於是乎可以飽。華衣綺裳。於是乎可以服。

寶貨可以藏。錢穀可以蓄。而其平常不可高枕席而安。起卧者。其唯火災也。已。寒冬以警。風烈以懼。報火而鐘聲響。呼火而柝聲傳。官吏出。街卒馳。其初起自爇炬。而其終也至燎原。煽煽赫赫。焦天炙地。如流星之飛空。如萬弩之衝陣。中燄者傷。迷煙者斃。假

使雨師驅雨。陽侯激浪。遂不可以撲滅之。而況於人力乎。閭里市鄣。於是乎變而為墟。堂宇臺榭。於是乎化而為灰。寶貨焚滅。錢穀燒亡。當是時。捐資失產。顛沛流離者。不知其幾。太平之世。使國力疲弊者。火災為最大。是以官置消火之員。街設消火之卒。龍

以吐水。扇以回風。所以防之之方。亦可謂備矣。而遂不可以防之。延燒連燬。小則數百家。大則數千戶。雖防火之神。鎮火之符。亦無奈此何。其竟也。謂之天災。劫火而後止。可歎矣。夫嗚呼。火誠不可防邪。若誠不可防。則國疲民窮矣。翁之著此書。將防其不可

防者而攘其災救其窮也。初聞之其言竒而可疑。後察之其事微而可信。夫鎮火之水。防火之幙。翁皆得之乎尋常耳目之所觸。而窮其理。而贊其用。其才踰西洋窮理者之上。而闡先賢未發之秘者歟。其有功德于世也亦大矣。蓋以其平生學主實用。而不

務浮華。富國利人之心。出於忠厚至誠而弗已。故歟。其於附錄亦復如此。如此而後生則有益於國家。死則不與螻蟻同朽。施之乎實地。而其功愈著。則防火之神亦將以有所遜其德歟。身生於聖。沒千載之後。而能創此一大偉事。孟軻有言曰。豪傑之士不

待文王而興。于今為翁請揭此語。安
政丙辰冬十月柳浦居士青木繁叙

防火策圖解卷之上



東壑翁 著



凡太平の世オヨソふ當て國家の財力を瘠シし士民の盛衰セイヤス小拘カ
るモ危クき者モノも火災の變ヘンより大オホキあるハなハ一コト殊マタ小ナシ又ナシ何時トキ
災ハをもカやも測ハカ知ル危クうハ極キて火急カキマある時トキハ身ミも危ク
く逃ニるニ途ミチを失ウふ事コトあり至貴トキの歩方オシカタトを下賤ゲセンの
處トコロ小チ至シると見ミを恐オソむ者モノも危クけむや別ワけて烈レツ
風カゼの砌ハふも一刻半刻イツクハニクの留トモも安心アンシンあるべうハ極キるシカ

愚^{フロ}うある人^トもそ危^キきふ安^{アン}居^{キョ}して何^{ナニ}の用^{ヨウ}意^イもあ^アる終^{ツイ}
 フリヨ^{クハ}の火^{サイ}災^イふ大^{ダイ}損^{ソン}毛^モして渡^ト世^セの手^テ段^{ダン}工^{コウ}風^{フウ}も盡^{ツキ}果^{ハテ}
 十^ト方^{バウ}ふれ氣^キ病^{ヤミ}とあ^アるて百^{ヒヤク}年^{ネン}の壽^{シユ}を一^{イツ}舉^{キョ}ふ滅^{メツ}する人^ト
 写^マく是^{コノ}あを哀^{アハ}もし又^{マタ}歎^{ナガ}しき次第^{シダイ}あを借^{ツク}出^{ダス}火^カの根^{コン}
 元^{ゲン}を考^{カウ}ふそ初^シ發^{ホツ}ハ僅^{ワザ}うある消^{ケシ}炭^{ズマ}の残^{ザン}火^カ炭^{スミ}つ不^フの
 中^{ナカ}ふ起^{オキ}り返^{カヘ}て或^{オホ}ハ床^ヤ下^カふ入^イ置^セ処^{トコロ}の灰^{ハイ}桶^{オケ}のぬ^ヌくも或^オ
 る抱^モ抱^ニ二^ニ階^{カイ}等^{トウ}ふ燈^{トモ}火^ビを忘^{ワシ}れ煙^{フキ}管^{ワス}の吹^{フキ}売^{カラ}或^オも小^コ
 童^{ドモ}の戲^{タシ}花^{ハナ}火^ヒの類^{タビ}又^{マタ}ハ大^{オホ}部^バ屋^ヤ臺^{ダイ}所^{トコロ}普^フ請^{セン}小^コ屋^ヤ或^オも貧^ヒ
 童^{ドモ}の戲^{タシ}花^{ハナ}火^ヒの類^{タビ}又^{マタ}ハ大^{オホ}部^バ屋^ヤ臺^{ダイ}所^{トコロ}普^フ請^{セン}小^コ屋^ヤ或^オも貧^ヒ

一^{イツ}き者^{モノ}ども寒^{カン}夜^ヤを凌^シぐ為^{タメ}ふ抱^イく処^{トコロ}の火^ヒ桶^{オケ}或^オハ
 火^カ燧^{タビ}の埋^ウ火^ヒ又^{マタ}も挑^{テウ}灯^{チン}をと^トりあ^アぐら枕^{マクラ}元^{モト}ふ店^{テン}
 て森^チ忘^{ワス}れ蠟^{ロウ}燭^{ソク}よそ燃^{モエ}うり或^オも焚^{タキ}火^ヒをが^ガんせあ^アら
 児^コ童^{ドモ}ふお任^{マカ}せを或^オも熟^{ジュ}醉^{スイ}して火^ヒを焚^{タキ}あ^アぐら居^イ
 眠^チもして相^{アヒ}發^{ツク}し或^オハ蚊^カを焚^{タキ}ながら居^イる
 て發^{ハツ}するの類^{タビ}是^{コノ}皆^{ミナ}孤^コ獨^{ドク}の貧^{ヒン}者^{ヤイ}一時^{イツ}の遇^{アヘ}やむ半^チ
 を得^エざるよそ發^{ハツ}火^カ談^{ダン}ふ大^{ダイ}事^ジハ小^コ半^ジより起^{オキ}る火^カ災^{サイ}
 る小^コ家^カより發^{ハツ}火^カと宜^ムあ^アる往^ワ古^コより大^{ダイ}火^カ災^{サイ}の

様モ様ヲを察サするハ元来タ火災ハも多オホうクらぬ平常ヘイジヤウ火カの元ノ
 用心ウシン手薄テウスの辺隅ヘタスミ孤獨コドク極貧ゴクビシの小家セウカをカよりカ發ハしてテ
 折マ悪ク烈風レツフウをカどカとカ御府内ゴフナイにカ燒入ヤキイリ蔓延マンエンして大オホ
 災サイとある事コト少オウあラくク火カ或ハも又マタ市井シセイの中ナカにカ火災カ
 の發動ソウドウ小まコまコざレれてテ盜ヌスむハとカ巧タクくカ或ハも燒打ヤケウキ金銀銅キンギンドウ
 鐵テツ猪鉄シヨウ拍パクを拾ヒロひキまシむハとカ毎ツ小コ火災カのカむシ車クルマ
 をカ希ヨミふカ邪欲ジャヨク盜心トウシンの者モノをカてテ烈風レツフウの夜ヨにカ乘ノりカ放ハ火カ
 してテ遂ツにカ延燒エンキヤウふカ及ヨぶカの類ルイ是レをカ小半コハンよりカ起オこス

大患タイケン小至コシ殊更トサフ東都トウツ和漢ワカン無双ムソウの大都會ダイトウの地チ
 ありてテ人家ジカス救ク百萬ヒヤクマン戸コ古コよりカ火災カ多オホくク明曆メイレキ三年サンネン本ホン
 郷九山クウサンよりカ出火シュツカ又マタ同日トウジツ小石川コイシガハ傳通デンツウ院前インゼンよりカ出火シュツカ
 一イツ同十九日トウジウジツ鞠街クマシ五丁目イツチヨウメよりカ發ハツ以上イツヂヤウ皆イツ一イツ處ヂョとカ
 江戸エド七分シチブの類燒ルイセウしてテ燒死セウシの者モノ拾万シウマン八千人ハチマンニッセンふカ及ヨぶカ
 と云トイフ又マタ安永アノエ元年イツネン目黒メグロ行人キヤウジン坂サカよりカ出火シュツカ千住センジウとカ燒ヤキめカ
 ずカ火尖ヒサキ未ミだカ消キエがるカ内ウチふカ又マタ小風コカゼふカ變カハりカ芝田町シバタチヨウとカ類燒ルイセウ
 一イツ是レ亦マタ燒死セウシ人ヒト多オホくク又マタ文化ブンカ三年サンネン高輪タカハよりカ出火シュツカ一イツ淺草アサカ

反圃と二里三十町余焼拂ヨヤキハラし由是等ヨシシラの大火災と
 今小於オイて世上ゼレゾレ小傳シラシラ少むるまふして市中チウチウの焼亡ヤクガケ怪家
 人シを救カサを命シる危チカうらば近チカ手頃コロる文政十二丑年三月
 廿一日外神田トカンダ佐久間街サクマエより出火ツキダ築地ツキダのさき海手ウミテ
 と焼拂シし後天保五年二月七日又同街ドウガイより出火
 鉄炮例海手テウバウと類焼ルイキヤウし同日丸の内マルノウチより出火シバダ芝口
 辺海手ヘノウミテと焼ヤケり又弘化二己年正月廿四日青山アヤマコ後田
 系シラより出火タカナハ高輪海手タカナハと焼拂ヨクし翌午年正月十五日

本々丸山マルヤマより出火鉄炮例テウバウと類焼ルイキヤウし赤永三戌年二月
 五日麴街カクガイ四丁目シジウチメより出火シバダ芝令拔海手シバダと焼拂シふ是
 等の出火シを火災カサイの大あるものありてそ外五町十町
 二十町位類焼ルイキヤウの小火災コカサイも年々四五家づつ多くなり
 後赤永三戌年中西ニシの窪クサ日本橋ニッポンバシ四日市ヨリイチ安針街ヤシガイ等元
 一年の内イチネン所々シロシロの火災カサイをなつむる時トキも小災コカサイも亦大
 災カサイとある尤赤永五子年正月四日両國米次街リウコクメジガイ出火
 の前マエさの烈風レツフウも急快晴キヤクサイの時トキ最思モトモシの外延焼エンキヤウせ

より火の元の倣列して 御嚴重小火 作付扇敷

衆番足廻り方火 作付

御威光を以てキ後大火災等市中一統相助り偏

御仁政故と銘を安堵仕ル事猶又嘉永七寅年十一

月五日聖天街三又々出火猿若街南小馬及よ

花川戸と焼拂小又同年十二月廿八日神田須田

街々出火一意外の大火災とあり日本橋江戸橋

を限り小類焼一又安政二年三月二日の伏見刻

小細街壹丁目々出火一南風烈しく浅草茅街と

延焼せし出火の時々市中焼亡せる物の金銀米

穀絹布器財諸材木の類 本邦諸國の産物と言

ふ及る漢土和蘭舶来言價の織物貴薬を外日

用の諸品小至ると幾百万金の蓄財山の如く小積阜

の如く小聚て悉く是を火小投して灰燼とあり

去うの如く米穀器財とも小忽ち言價小進み諸

職人の手習料三倍五倍小至り諸人の総括して

うごく自^{ニゼン}然^シ上下^ノ衰^シ耗^スの基^ニ實^シ小^シ歎^ム息^ム小^シ恠^ム火^ノ列^ノ侯^ノ
 富^{トシ}と^シ推^シ錢^ノ穀^ノ玄^ノ財^ノの燒^ク亡^スと^シ差^シを^シ果^シ一^ノ金^ノ銀^ノと^シ求^ム
 め^カ給^ス累^シ世^ノ持^シ傳^スり^ノよ^クま^シの武^ク器^ノ重^シ宝^ノ記^シ録^ス書^ノ類^ノを
 燒^ク失^ス小^シ珍^シ本^ノ奇^シ材^ノ百^シ金^ノを^シ抛^クて^シ修^リ理^スし^テま^シし^テ殿^ノ
 宇^ウ樓^ロ樹^キも^シ一^ノ瞬^ノの^ノ留^ル小^シ灰^ノ燼^ノと^シあ^ル惜^ムむ^シづ^シま^シう^ク於^テ爰^ニ
 小^オ於^テ領^ノ内^ノ大^シ小^シの^ノ百^シ姓^ノ平^シ生^ノの^ノ恩^ノ澤^ノ小^シ妙^シ小^シ再^シ造^ス
 經^キ營^ノの^ノ力^ノを^シ助^ケけ^テ奉^ルら^ムむ^シと^シ家^ノ産^ノを^シ傾^キ多^ク用^シ令^シを^シ出^ス
 以^レ乎^レ上^ノ下^ノの^ノ辛^シ苦^ノ疲^シ弊^ノ亦^シ兼^シ多^ク也^ノ况^シ乎^レ市^ノ井^ノ商^ノ

估^コの^ノ輩^ノ不^レ至^ルと^シも^シ三^ノ年^ノ小^シ一^ノ交^シ五^ノ年^ノ小^シ一^ノ交^シ此^ノ大^ノ厄^ノ小^シ遇^ス
 或^ハも^シ燒^ク亡^スの^ノ後^ニ復^シ小^シ普^シ誥^ス經^ノ受^スと^シ推^シも^シ人^ノ々^ノの^ノ運^シ勢^ノ小^シ
 より^フ不^レ幸^シあり^テ亦^シ再^シ燒^クも^シる^シら^ムも^シ其^ノ持^シ入^ル骨^ノ折^ル千^シ辛^シ万^シ
 苦^クして^シ漸^シく^シ再^シ造^スの^ノ功^ノを^シ遂^シに^シ未^シだ^シ暫^シ時^ノも^シ住^シ居^ス
 せ^ギる^中小^シ火^ノ小^シ投^クぜん^シ半^ノを^シ歎^クき^テ強^クて^シ是^ノを^シ防^グぎ^テ柱^シむ^シ
 と^シす^レれ^が猛^ク火^ノの^ノ為^ニ小^シ身^ノを^シ燒^クも^シ焦^ル損^ス火^ノ傷^スも^シる^シ
 者^ス少^クう^クう^クは^シ故^ニ小^シ烈^シ風^ノ大^シ火^ノの時^ニ小^シ當^ルて^シも^シ唯^シ恐^ルし^テま^シ車^ノ
 小^シの^ノ心^ノ得^ル救^ル万^ノの人^々周^シ章^ノ狼^ノ狽^ノし^テ火^ノを^シ防^グぐ^ノの^ノ術^ノ也^ノ

おくイカラ徳小家財を運ハコ小逃ニケるを專センと次是ス小於スて火
 勢キを愈熾イヨクサカシ小あをヒサキ火尖ノキバを軒端ノキバよヒて新ニ燭ロウふツを
 屋根裏ヤ子タる屋根裏ヒに燃走モエハレて小写戸コマドよヒ小写戸コマドト
 吹通フキトフ一床下マカシタよヒ床下マカシタつマシ小蔓延マンエン一此コノ小あスるウと
 思オモへカレ彼カレ小燃上モエアガる忽タヤち二町三町の遠トヲさモエ小燃走モエハレり
 大小ヒコの火屑ヒコを烈風レツフふヒて散乱サンラン一大道堀川大土
 手テを折越ウチコ一思オモひウチまウチらウチざるウチをウチ飛火トビヒして燃上モエアガるウチを混
 雜サカ小因ヨウて猶更ナラサラ何ナニもナニ焚火タキヒをマ終マ小捨ステてニゲ迹ニゲるニゲを燒

出スるス小あスを炭火埋火スミビある火ヒを土藏ドク小入イて内ウチより燃出モエ
 火ヒもヒて火上ソエ小火ソエを添火口ソエをソエ敷シ十シ抄シ小あスを火勢益
 々イく千金の家藏イ万金の諸商物ムダをムダ一ヒ時トキ小燒滅ヤメ一
 炭灰スミとある写シをシよく持出モツ一ヒるヒハヒ盗ヌスるヒるヒもヒあスる
 老人小兒カウシ多く病者カウシ盲人カウシある者カウシをカウシ抱カウシ小手カウシ廻カウシり兼家具
 商物等カウシ九カウシ出カウシ火カウシ眼カウシもカウシあカウシく周章カウシ騒カウシぐ土藏カウシの目カウシ堂カウシ穴カウシをカウシ蓋カウシ
 蓋カウシもカウシ年カウシもカウシ叶カウシとカウシ令カウシ限カウシりカウシ小逃ニケ出ニケ一類燒カウシの後カウシ小至カウシり立
 のカウシまカウシ小あカウシるカウシもカウシるカウシ且カウシ又カウシ飛火トビヒ一ヒ行光カウシ小火尖カウシ燃出カウシ一烟カウシ

氣小とらうれ倒るもあも老人女子小児の輩も逃了途中
 又と踏倒され怪家もあもて元々周章混和たふ小暇なく
 なる小思ひ難く古より大商の主人も火災の一擧小林縁基
 多を失ひ九引先令融差支へ年来手馴る仕来りの後世
 も終り兼妻子を牽て路頭小流落するものも有為轉
 變の世れ中との言ながら火災の一大変より上下の
 困厄小及る形ゆのゆい殊小諸物焼亡諸小拂底ゆる
 小よる市中彼是せも揚て諸物の價職人の手寫自

我と言貴小進り第一材木の類を近頃言山深谷持
 出の難いよままむも手段工夫をそへ悉く伐本もゆ
 放小進り良材も乏しくかて愈言價小募る斗りくけ上
 と止半とゆもい年々大火災あつて上下の瘡癘
 測知危ういん是小加うる小飢饉水旱の災を以てせは
 そ患亦何れや實小火災の一大変ハ必家の財力を
 瘡ら士民の盛衰小かす上下衰耗の基とあるべし
 の放放小防火の御預め構究准備せむんをむべし吉

昔戦争の世弓箭を以て戦ふ時を楯を以て是を
 防ぐ事後砲銃浚来一戦法烈しくある時を又工風
 て新小竹把を製作して是を防ぐ既小利根川の如
 きへ坂東第一の大河なりて不時小洪水の恐もあるが
 故小秋じめ廣大の地塘を築たそ水船を防ぐ今
 火災を防ぐも秋じめそ器具を準備する小河うざれば
 是をよく防ぎ給る事叶ふ處うざれば是も今防具
 を用心びよく防がむと欲するも楯竹把等て弓銃

を防がむともる小等しく如何して能防止をばらんや今世
 上より龍吐水を以て第一の防具とありと雖大風猛
 烈の火尖れ打水人力の能及ぶべき事小非びを来
 有心の士頗る防火の術を説者あるごとく用費多
 く且迂遠なりて實地小功用あり殊小を頃々町並
 家毎小用心水を汲あらしべ餘も流吐水を備へ晝松の
 番扇重ある時暮あらしたましく山火してさのも風も烈し
 うらざら小思の外蔓延して大火災とある事あるは替

時も安心あり。ぐくぐく火災ふ烈風猛火の蔓延しつるを
 中々水吐水人カ及びぐくぐく幸必せざるふ
 天地の妙用自出りて万物を生むるあまれば必は相
 尅するの物ありと云々。ぐくぐく譬へば王水硝酸硫酸塩
 酸等の令銀銅鉄を溶解するも火熱をうらぐくして
 水のぬくよあは車猶熱湯の氷雪を消するが如く又石
 鹼の脂垢を除き灰汁の臘脂を尅し梅酢の臘脂
 文を生活せし免礬石の蘇枋文を美活せしめ生

姜汁の血を消するの效も妙效奉て弄ふ暇あり又
 水中小投じて汚濁せざる物あり火中も投じて焼燼
 せざる物あり予愛ふ於て救十年の写防火の一術
 を工夫し晝夜千慮萬考して漸く赤永三庚戌の歳
 ふむり防火の術小於て至易至劣ありて用費少
 く事の急小臨んで速小應ずるの一策を發明せし
 其術たるや第一軒端屋根裏小窓戸床下等小吹入
 る處に猛烈の火尖ハ勿論微少の烟炎も吹入する

採防具を以て遮隔し且又初發屋上小燄上らんと
 する火も立寄らば消し一二家小傳焼も忍小防
 止し一町二町小延焼も急を小遮り止し消滅せし
 むと劇風猛火小向ひて防ぎ止る車自在あるが故小
 何ある烈風の時と雖大火延焼の患あり且予が
 工夫の防具を用ゆる時も町並百口五百十留或ハ二十留
 三十留小及ぶ要も人足五人より十分小手廻り素人小
 ても働き自立ありて何ある烈風猛火と雖も聊

各相遠避隔消滅するが故小諸人周章狼狽せん家具
 を移運し逃るの路もかく各安心して防ぐべし
 縦令何ある近火急火と雖も人の心中おぼやうある
 が故小前後混乱の患あり此御行もろ小至る東都
 も勿論京都大坂五海道欽く至く強否捕り人
 叢集の地小至ると大火延焼の患あり小至らん其
 時小茅宅田祿の禍を脱し鐵穀焼亡の患あり万
 貨流布し拍價平坦し一國富民饒小上下安堵し

牧身自ら火を放ち盜をなさざるも悪意破れ小
 暮るハ一かゝる感應經曰夫心起於惡惡雖未為而凶
 神已隨之入皆惡之刑禍隨之吉慶避之惡星災之
 と是只も惡念の心中小萌たる斗りよくつまゝ惡事
 (あきまとも惡星の崇ふ神の咎形のみく多ある
 といて恐るる危うんや且又火災多き時を縁職の作料
 倍增小至り一旦利淫ある様小えぬとも火災の為小
 法不直あるも年増りて又已むく小買ふるも不

小於て却て損毛多けは則ち何の益あるんや諺
 小已より出る者も又必ひ已小歸るとして世上諸人の
 給儀を好む者も又めぐりて必ひ已が身のみつかりと
 ある人の給儀を悦ぶの報恐るべし古語ニ利人者
 天必福之惡人者天必禍之とて他の給儀を以て
 已むり利徳ともるを悦ぶ者を譬へハ毒を食いて腹
 き肥むが如く一旦も腹小充まともやぐくそ身を失ふ
 危く天地神佛も是を免くたまはざる能くは潜小

火附盜賊人殺する者此を罪忽ち放きて目前火刑
 死刑シキ小罪シヨを以て其理を考へ知る處一將タ又
 毎歲燒亡イサキするもの幾百千万令の諸亦悉く必土
 小存在して應用する時を益ソクの廣大ある半亦何
 かりや兼令法職の作料ゲダキ下直ゲダキも亦已に日
 用買入の所カヒ下並あるを平日の暮クラ一方小於て却
 利徳多し是亦人を利するものも天必は是オホキ小福オホキの
 道理ダリを本よそ万種マンシユル流布ル一談セン教餘コウてて必廢キツクを

民窮ミンキウするの理リゆらんや法亦の價アモ下落ゲラクする時ハ四海一
 統トウ下落ゲラクのまゝ互ニ相タ互ニ小甲コウ乙エツをく循環ジュンするも天
 地チ自ジ其キの理リあり故ユ小防火の二術ニを實シ小必コ放ホウを
 富トウ上下士民を饒足チウせしむるの第一ダイあるものあり
 若ニ是コトを誅シて火災を好コホものあり
 御治世ゴチセイの大罪人ダイザイニとのシ處ニ故ユ小防火具を用意して
 各能ナ火災を防く時を第一ダイ小自コ己コの厄ヤク難ナンを除クき
 次ツギは諸人の類焼ルを脱ダツ免メしめて

御上様ノの忠義 御國恩を報ハクむるの一端ハツありて
 感應經カンオウキョウ心ココロ小善コゼンを起オコせむいまイマ善年ゼンネンをホシとシども
 吉神キクシ已ナ小コ之ノ小コ徳トクひ天道テノチ之ノを祐タシ多タ福祿フクロク之ノ小コ徳トクひ
 衆邪シュジャ之ノ小コ遠トホカて神靈シニレイ之ノを衛マモらむとシて故ナ小コ今イマを防
 具ツ法術ホウジュツをツ解トクめて遍ヒラくを世ヨ小コ弘ヒロ免ヒ人ヒト小コ示シ
 して太平防災テイサイボウサイの用ヨウ小コ徳トクむと欲ホツ以ヒ且ナ又マタ去キ卯年ウノトシ政安
 年十月二日夜戌ニトキトウジツニヤのノ下刻ゲコク 御府内ミツチノの大地震オホチを古
 今罕イマハあり大變オホヘンありて江戸エド一帯イツタウとシて中ナカ小コも深川フカガハ本

所淺草下谷ソウソウジヤハ別ワカして猛劇モウゲキありて望遠ボウエンの土葬ドボウも悉
 く壁カベをカ小コ家カ宅タク長家町チヤウカウチヨウ並ナ一時イツジ小コ長チヤウ徳トクきれ此時コトキ
 小當オウて諸人シヨジン逃ニゲ出イダひ暇イダヤもなく梁ハシ小コ壓オサを柱ハシラ小コおし
 偶オウ逃ニゲ出イダる者モノハ戸外コノソトよりヨリ落オチるル処トコロの庇ヒ小コもも是コノ處トコロ也
 くるル東ヒガシの土葬ドボウのノ管ツバ小コおしし為ナ次ツギ往來キヤウライ小コ排ハキ徊クワ者モノを左
 右ミドリより落オチるル屋根ヤネ庇ヒ小コもも死傷シキヤウをウ影カゲくく是
 小徳コトク小コ火ヒをヒ以ヒて救サツ百卷ヒヤクダン所トコロの火口ヒナグチ一イツ齋サイ小コ旗ハタ上ウヘを
 推オシむる是コノを防フセぐる者モノもも火勢ヒヤシ天テンを焦コガはすはす

中チ小コもいイまマびビ死シすスるル小コ死シすスるル運ウンよヨくク屋ヤ根ネ下カのノ穿ウちチ出デるル
 もあモれレどド又マ逃タるル年ネン叶エふフてテ其マ後ノチ燒ヤ死シるルもモ有アりリ或シハ
 父チチ母ハハ兄ケイ弟テイをヲ失ウ小コ或シハ妻メ子コをヲ失ウ一イツ家カ内ノ
 主ヌシ後ノチもモ小コ死シ傷ケるルもモ有アりリ或シハ五イ十ジウ人ニン六ロク十ジウ人ニン同ドウ時ジ
 小コ死シるルもモ有アりリ其マ死シ亡シ業ノブ万マンありリやヤ初ハジメのノ處トコロ々々火ヒ殊ト小
 土ツチ新ニハ悉シツくク破ハ壊ク一イツ上ウ小コ死シるル同ドウ時ジ小コ火ヒとト同ドウ
 火ヒ中ナカ小コ残ノコるル一イツ土ツチ新ニあアくク未イだダ淺シきキるル家カもモ押オシ並ナて
 類ルイ燒ヤ一イツ救クウ万マン令レイのノ株カ緑ロクもモ暫シバ時ジのノ留ル小コ鳥ウとトあアるル
ナク

運ウンよヨくク九ク死シをヲ免メ脱ダツ一イツ者モノもモ寐ミ卷マキ一イツつツるル迹アト延ノビ燒
 小コ孤コ獨ドクのノ窮キウ民ミンとトあアるル實シツ小コ抱オモ思オモ一イツ目メもモ何ナニもモ有アりリ
 ぬヌもモ抑オシへヘ是コト何ナニがガ故ユぞゾあアるル大ダイ地チ震シもモ百ヒャク年ネン又マタ
 二ニ百ヒャク年ネンのノ留ル小コもモ有アりリやヤ初ハジメのノ處トコロ々々火ヒ災サイのノ患ウをヲ患ウ
 してシテ家カ宅タクのノ建タテ方カタもモ粗ソ畧リョクあアるル小コよヨもモ近チカ年ネンハハお
 ぶブ大ダイ地チ震シあアるルがガ後ノチとトてテもモ東トウ都ト小
 於オてテ再サ變ヘンあアるル一イツとトもモ云イハふフ一イツ火ヒ兼ケンてテ是コトをヲ防ブぐクのノ心ココロ

右の家の如く屋上棟木不^ク脱落を^{ウチミツキ}おぼ^クは^ク是^レ不^ク跌^ク
 の隙を^キ家の如く表裏とも不^ク附^クを^{ツケヲキ}其^レ為^ニを^{カキ}帶^ヒ不^ク掛^ク
 時々素人^{シロト}も進^シ退^シ周^シ旋^シ自^シ在^シゆ^レて^シ屋根^ノの^クの^ク
 働^クを^イ平地^ノを^イ走^ルふ^シと^ク怪^ケ敷^ガなる^クの^ク患^ハな^クま^ス
 平日^ノ尾^ノの^クだ^ク雨^ノ漏^レ害^ヲをつ^クう^クも^ク至^ル極^ニ便^ニ利^ニ
 な^クも^ク勿^ク論^ニ防火^ノ道具^ヲを^イ取^ル扱^フふ^クも^ク右^ノの^ク跌^ク隙^ヲ為^ス
 附^クを^イ不^ク非^クを^イハ^ク素^ト人^ノの^ク働^ク不^ク必^ク難^ク

防火策圖解卷之上 畢

